

第34回 通常総会議案

令和6年5月16日



一般社団法人ダム工学会

— 目 次 —

議案 1 令和 5 年度事業報告	1
議案 2 令和 5 年度収支決算報告	1 7
議案 3 令和 5 年度会計監査報告	1 9
議案 4 理事選任 (案)	2 0
議案 5 監事選任 (案)	2 1
報告 1 令和 6 年度事業計画	2 2
報告 2 令和 6 年度収支予算	2 5
報告 3 新任役員等の紹介	2 7
報告 4 評議委員の紹介	2 8
令和 5 年度ダム工学会賞受賞者	2 9

令和5年度 事業 報 告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

令和5年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、事業計画について必要な見直しを行いつつ、会員各位の協力のもとに、広報活動、学術講演会、研究発表会、講習会、各地区現場見学会、ダムなんでも相談室、with Dam★Night 2023、ダム工学会賞の選定と表彰等について、WEB会議システムを活用し実施した。学会誌「ダム工学」を発行するとともに、一般の方がダムに関する情報を容易に得られるようダム工学会ホームページを運用した。

調査研究委員会では、各研究部会の下、研究活動を行った。交流研究事業4テーマを継続実施した。大規模洪水が頻発する中、「大規模洪水時におけるダム効果の情報発信に関する提言」をとりまとめ公表した。また、「ダムコンクリートの圧縮強度試験の合理化」についてとりまとめ、講習会で講演した。

会員数は、令和5年度末現在、正会員・シニア会員は652名、学生会員は79名、賛助会員は52社となった。令和4年度末に比べて、正会員・シニア会員は12名の減少、学生会員は9名の増加、賛助会員は2社の増加となっている。

各事業の実施については、各委員会、研究部会により安全で適切に行われた。また、会員各位の積極的な活動に支えられた。

1. 委員会等活動報告

(1) 通常総会

令和5年5月に通常総会（WEB開催）を開催し、令和4年度事業報告及び収支決算、理事選任等について承認を得るとともに、令和5年度事業計画及び収支予算等について報告を行った。

○ 第33回 通常総会（WEB開催）

開催日： 令和5年5月18日
場所： 星陵会館 2Fホール
委任者数： 399名
議題： 令和4年度事業報告及び収支決算、会計監査報告
理事選任、監事選任
報告： 令和5年度事業計画及び収支予算
評議委員の紹介
令和4年度ダム工学会賞受賞者

(2) 理事会

以下の通り理事会を開催した。

○ 第87回 理事会

開催日： 令和5年4月27日
場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題： 第33回通常総会議案（案）について
会員状況
ダム工学会の当面の主な予定
第33回通常総会及び表彰式（案）
第33回通常総会及び特別講演会について（第2報案）

- 第88回 理事会
 - 開催日：令和5年5月30日
 - 場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 - 議題：会長・副会長の選出について
顧問の選出について
表彰委員会委員の選出について
選考委員会委員の選出について
理事の委員会委員委嘱について
- 第89回 理事会
 - 開催日：令和6年3月14日
 - 場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 - 議題：令和6年度事業計画（案）について
令和6年度収支予算（案）について
 - 報告：令和5年度事業執行状況の報告
会員数の推移
ダム工学会通常総会までの主な予定
今後の学会運営に関するフォローアップについて

（3）評議委員会

以下の通り評議委員会を開催した。

- 第44回 評議委員会
 - 開催日：令和5年4月27日
 - 場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 - 議題：令和5年度 理事推薦（案）について
令和5年度 監事推薦（案）について
令和5年度 評議委員（案）について
第33回通常総会議案（案）について
ダム工学会の当面の主な予定
第33回通常総会及び表彰式（案）
第33回通常総会及び特別講演会について（第2報案）

（4）委員会等活動

事業活動を推進するため、企画運営委員会及び各小委員会、編集委員会、調査研究委員会、ダム工学会賞の関係委員会を以下の通り開催した。

1) 企画運営委員会

- 第94回 企画運営委員会
 - 開催日：令和5年4月12日
 - 場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 - 議題：第33回通常総会議案（案）
ダム工学会の当面の主な予定
第33回通常総会及び表彰式（案）
第33回通常総会及び特別講演会について（第2報案）
- 第95回 企画運営委員会
 - 開催日：令和6年2月14日
 - 場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 - 議題：令和5年度活動報告・令和6年度事業計画（案）について
令和5年度事業執行状況について
令和6年度収支予算（案）について
ダム工学会通常総会までの主な予定
今後の学会運営に関するフォローアップについて

- 各小委員会の活動内容
 - ① 総務小委員会
通常総会、理事会、評議委員会及び企画運営委員会の運営に関する企画・立案・実施、会員情報の管理、学会会計（会費の徴収を含む）の報告を行った。
 - ② 学術研究発表会小委員会
特別講演会及び研究発表会の運営に関する企画・立案・実施を行った。
 - ③ 講習会小委員会
講習会の運営に関する企画・立案・実施を行った。
 - ④ 現地見学会小委員会
現地見学会開催に関する企画・立案・実施を行った。
 - ⑤ 広報小委員会
学会及び学会行事の広報に関する企画・立案・実施を行った。また、ホームページの更新、メルマガ配信サービスにより情報提供を行った。
 - ⑥ 活性化推進小委員会
ダム工学会の活性化推進方策の検討や、with Dam★Night 2023、各地区活動・ダムなんでも相談室・若手の会の運営に関する企画・立案・実施を行った。

2) 編集委員会

「ダム工学」発行のため、編集委員会を計4回開催した。

- 第134回 編集委員会
開催日：令和5年4月18日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題：学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について
- 第135回 編集委員会
開催日：令和5年7月20日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題：学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について
- 第136回 編集委員会
開催日：令和5年10月17日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題：学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について
- 第137回 編集委員会
開催日：令和6年1月17日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題：学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について

3) 調査研究委員会

- 第1回 調査研究委員会
開催日：令和5年8月10日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題：事業報告内容の確認
（コンクリートダム、フィルダム、地質・基礎、維持管理、施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会）
交流研究事業の状況報告

- 第2回 調査研究委員会
開催日：令和5年12月14日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題：事業報告内容の確認
（コンクリートダム、フィルダム、地質・基礎、維持管理、施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会）
交流研究事業の状況報告

4) ダム工学会賞の関係委員会等

- 令和4年度 ダム工学会賞表彰式
開催日：令和5年5月18日
場所：星陵会館 2Fホール
受賞者：功績賞、技術功績賞、技術賞、論文賞、著作賞

- 令和5年度 技術開発賞公開審査会
開催日：令和6年2月8日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
応募数：5件

- 令和5年度 選考委員会
開催日：令和6年2月22日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題：技術賞の授賞者選考
功績賞、技術功績賞、論文賞の各候補者選考

- 令和5年度 表彰委員会
開催日：令和6年3月8日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題：優秀発表賞、技術賞、技術開発賞の授賞者選考経過報告
功績賞、技術功績賞、論文賞の授賞者選考

2. 行事活動

(1) 研究発表会（学術講演会及び講習会と合同開催）

- 令和5年度 研究発表会（WEB開催）
開催日：令和5年11月16日 10:00～13:40
場所：東京カルチャーカルチャー（渋谷区）
聴講者数：最大90名アクセス
発表論文数：6編
優秀発表賞：（優秀発表賞選考委員会での選考）
京都大学大学院工学研究科 岡本 悠希 氏
『アンサンブル降雨予測を利用した洪水調節操作の
最適化に関する基礎的検討』

(2) 学術講演会（研究発表会及び講習会と合同開催）

- 第33回 特別講演会（WEB開催）
開催日：令和5年11月16日 13:40～14:35
場所：東京カルチャーカルチャー（渋谷区）
聴講者数：最大90名アクセス
講演：京都大学 大学院 工学研究科 都市社会工学専攻 教授 岸田 潔 氏
『岩盤割れ目の流れとグラウチング』

(3) 講習会（研究発表会及び学術講演会と合同開催）

- 令和5年度 講習会（WEB開催）
開催日：令和5年11月16日 14:40～15:35
場所：東京カルチャーカルチャー（渋谷区）
聴講者数：最大90名アクセス
講演：一般財団法人 ダム技術センター ダム技術研究所 所長 吉田 等 氏
『ダムコンクリートの圧縮試験の合理化』



ダム工学会 川崎会長による開会挨拶



京都大学 岡本氏による発表



ダム工学会 川崎会長による
優秀発表賞の授与



京都大学 岸田教授による講演



ダム技術センター 吉田所長による講演



優秀発表賞選考委員会
乗京委員長による閉会挨拶

(4) 現地見学会（CMED会、日本大ダム会議と共に）

- 第46回 ダム工学会現地見学会
日 時 : 令和5年10月24日～25日
実施場所 : 成瀬ダム
参加者数 : 44名

(5) 活性化関連活動

- ダムなんでも相談室
開催日 : 令和5年8月5日
場所 : 音楽の友ホール（東京都）
概要 : 子供たちを対象として、ダムの役割と水の循環、再生可能なクリーンエネルギーや災害時の心構えについて、パネル展示やダムクイズを行った。
参加者数 : 35名
- 第8回 若手技術者のためのダム見学会
開催日 : 令和5年9月4日～5日
実施場所 : 南摩ダム、草木ダム
参加者数 : 17名
- 第10回 ダムを知るための若手技術者勉強会
開催日 : 令和6年1月26日
場所 : (一財)ダム技術センターAB会議室（WEB開催）
概要 : 「流域治水」をテーマに、ダム事業を中心とした流域治水の推進の取り組みや、ダムの事前放流により異常洪水時防災操作を回避し、洪水被害防止に貢献した事例についてオンライン講演を行った。
参加者数 : 74名
- ダム好きオンライン会議室（新規）
開催日 : 令和5年10月21日（第1回）、令和6年2月17日（第2回）
会議形式 : WEB会議（第1回、2回）
概要 : “ダムプロフェッショナル”と“ダムファン”を繋ぎ、座学や雑談を通してダムに関する知識や興味、相互交流を深めることを目的としたWEB定期開催イベントを行った。
参加者数 : 47名（第1回、第2回）
- ダムとダム周辺農業の関わり 一交流会一（新規）
開催日 : 令和5年9月22日～23日
実施場所 : ダム見学「田瀬ダム、遠野ダム、遠野第二ダム」
農業体験「岩手県遠野市内」（対面開催）
概要 : ①ダムの役割やダムの存在意義などを学生や地域住民に適切に情報発信すること、②農作業を手伝うことにより、高齢化や人手不足など労働力不足に悩む農業の課題を解消することを目的としたイベントを行った。
参加者数 : 13名 大学関係 : 7名（教員1名、学生6名）
農業従事者 : 1名
ダム工学会 : 5名

- with Dam★Night 「2023：導流・減勢編」
 開催日：令和5年7月14日
 場所：(一財)ダム技術センター AB会議室 (WEB開催)
 参加者数：200名 (結果をYouTubeにて動画配信)

wDN プログラム		
第Ⅰ部「カッコいいダムの背中」		18:00～19:10
開会の辞 司会		
オープニング映像	制作 萩原雅紀	18:01～18:03
夜話1. 「カッコいいダムの背中」	by 夜雀 講師	18:03～18:20
夜話2. 「飛び出せ！世界の洪水吐き」	by 萩原雅紀 講師	18:21～18:46
夜話3. 「導流と減勢の歴史」	by 川崎秀明 講師	18:47～19:08
第Ⅱ部「導流減勢の美と技の面白探求」		19:20～20:58
主宰者挨拶 ダム工学会会長（川崎正彦）		19:20～19:26
1. 基礎編 「導流・減勢に係わる基本的事項」 by 高須修二講師		19:26～20:00
2. 問答編 <登場ダム>		20:00～20:57
小石原川ダム（階段式のシート）、村山下ダム（階段式減勢工）、比奈知ダム（天端側水路）、横瀬川ダム（中段側水路式減勢）、大山ダム（典型的な側水路減勢）、猿谷ダム（減勢池の曲線傾斜導流壁）、上椎葉ダム（左右両岸のスキージャンプ）、御母衣ダム（曲線シートの洪水吐き）、坂本ダム（段違い自由越流）、殿山ダム（クレスト+オリフィスの大容量ゲート群）、長谷ダム（典型的な漸縮導流壁）、志津見ダム（完全な全面越流）、丸山ダム（洪水量と減勢の関係）、長安口ダム（フリップバケットから副ダム減勢へ）、立野ダム（流水型ダムの減勢工）、清水沢ダム（自然の滝風の設計）		
閉会の辞		

- with Dam★Night in 仙台 2023
 開催日：令和5年12月8日 (WEB開催)
 場所：東北大学 工学研究科 人間・環境系教育研究棟 309
 参加者数：86名

wDN プログラム		
司会：加納 実、権神侑貴(活性化推進小委員会 東北地区委員)		
開会挨拶	ダム工学会 会長 川崎 正彦	
夜嘶1：「ダムとタイムラプス」	土木写真家 西山 芳一	
夜嘶2：「東北の災害とダムに関するよもやま話」	国土交通省 水管理・国土保全局 防災課 災害分析官 板屋 英治	
夜嘶3：「ちょっと北海道のダムを見学してきた」	ダム愛好家 憲坊	
夜嘶4：「北陸・三国川（さぐりがわ）ダムの話」	北陸地方整備局 三国川ダム管理所長 渡邊 一成	
夜嘶5：「成瀬ダムバーチャル見学ツアー2023」	鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同企業体 成瀬ダム堤体打設JV 工事事務所 副所長 小倉 精太	
閉会挨拶	東北大学 大学院工学研究科・工学部土木工学専攻 基盤構造材料学講座 材料力学分野 教授 京谷 孝	
ダムLOVE唱和：	活性化推進小委員会 東北地区委員 丹羽 尚人	

○ with Dam★Night in KINOKAWA (中部・近畿地区)

開催日：令和5年10月27日

場所：梅田Lateral (WEB開催)

参加者数：100名 (結果をYouTubeにて動画配信)

wDN プログラム

司会：夜雀

19:00～19:05：開会挨拶 (ダム工学会 川崎正彦会長)

19:05～19:30：紀の川水系のダムについて

中川靖志様 (近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所 所長)

19:30～19:55：吉野川分水について

新井宏巳 様 (大和平野土地改良区 事務局長)

19:55～20:20：関西電力 殿山ダム あふれる魅力

佳 様 (ダムマイスター(一般) 03-046)

20:20～20:45：新宮川水系ダム群での堆砂・濁水・洪水被害軽減対策について

前田修一 様 (電源開発株式会社 水力発電部 西日本支店 支店長代理)

20:45～21:00：閉会挨拶 (京都大学防災研究所 角 哲也 教授)

○ with Dam★Night in Kyushu 2023

開催日：令和5年11月4日

場所：TKPガーデンシティ

PREMIUM天神スカイホール・メインホールA

参加者数：89名

wDN プログラム

15:00 : 【開会挨拶】 ダム工学会 会長 川崎 正彦

15:10～ : 【講演(1)】阿蘇立野ダム苦楽ばなし

九州地方整備局 河川情報管理官 甲斐 公久

【講演(2)】ダム活のすゝめ

北九州のダム好き

【講演(3)】最新の温暖化予測データを用いた

ダム運用への気候変動の影響評価

鹿島技術研究所 サスティナブルソサエティラボ 野原 大督

【講演(4)】デミー博士によるダムマニアの偏愛分析

噂の土木応援チームデミーとマツ 出水 享

16:55～ : 【イベント(1)】2023 九州ダムフォトコンテスト審査発表

ダム工学会九州地区連絡会 wDN 実行委員会 泉 倫光

17:15～ : 【イベント(2)】2023 wDN in Kyushu 「ダム jackpot」

FM 福岡 DJ & パーソナリティー Kaede

ダム工学会九州地区連絡会 wDN 実行委員会 相原 慶輔

馬場 凉歌

17:45～ : 【閉会挨拶】ダム工学会九州地区連絡会 会長 矢野 真一郎

【展示品】ダムフォトコンテスト参加作品、全国ダムカードパネル

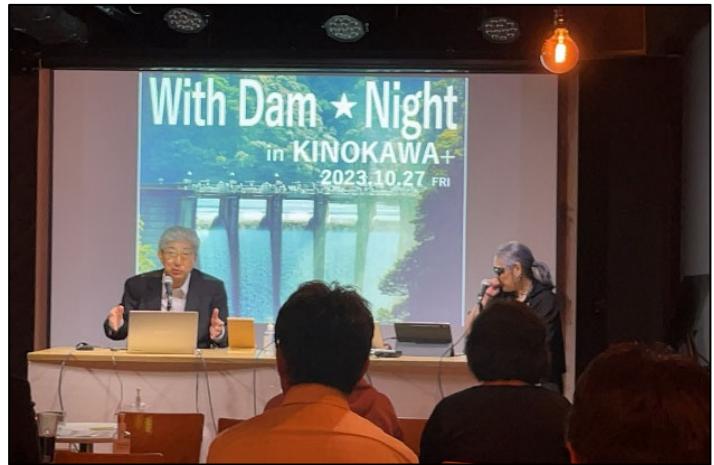
『懇親会会場：ウエストルーム』

18:00～ : 【懇親会】

- 北海道地区 現地見学会
開催日：令和5年10月12日
実施場所：二風谷ダム・大節婦川橋
参加者数：75名
- 東北地区 現地見学会
開催日：令和5年10月30日
実施場所：成瀬ダム
参加者数：25名
- 中国・四国地区 現地見学会
開催日：令和5年11月16日
見学場所：平瀬ダム
参加者数：20名
- 九州地区 現地見学会
開催日：令和5年9月22日
見学場所：河内堰堤・五ヶ山ダム・曲渕ダム
参加者数：21名
- 中部・近畿地区 現地見学会
開催を中止



「with Dam★Night 2023 : 導流・減勢編
ダムオデッセイ」集合写真



with Dam ★ Night in KINOKAWA+
中部・近畿地区 実施状況



若手の会 第8回 若手技術者のための
ダム見学会 実施状況（草木ダム）



東北地区 現地見学会
実施状況（成瀬ダム）



中国・四国地区 現地見学会
実施状況（平瀬ダム）



with Dam ★ Night in Kyushu
実施状況（立野ダム）

3. 研究活動

(1) 研究部会

調査研究委員会の研究部会は、コンクリートダム、フィルダム、地質・基礎、維持管理、施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会の7部門から構成され、各研究部会において研究活動が行われた。

① コンクリートダム研究部会

「コンクリートダムとDX -何が変わらるのか-（仮称）」について会誌「ダム工学」への投稿を目標に、作業分担の調整、作成準備、各編（全4回予定）技術コラム案の作成、とりまとめ等を行った。また、各編技術コラム案の推敲を行った。

○ 第1回 コンクリートダム研究部会

開催日：令和5年6月7日

会議形式：WEB会議

○ 第2回 コンクリートダム研究部会

開催日：令和5年12月19日

会議形式：WEB会議

② フィルダム研究部会

「フィルダム再開発（嵩上げ、耐震補強、放流設備増強）の技術的検討」について、再開発事例の収集整理と分析、再開発にあたっての技術的課題と対応方法についてとりまとめ等を行った。また、「大規模地震時におけるフィルダムの被災と復旧、及び耐震補強対策」について、会誌「ダム工学」への投稿を行った。

○ 第1回 フィルダム研究部会

開催日：令和5年12月1日

会議形式：WEB会議

③ 地質・基礎研究部会

「ダム（堤体、貯水池周辺斜面）の維持管理・再開発における地質調査に関する研究」について、既往文献に基づく事例研究とそのとりまとめを行った。また、新規研究テーマについて検討を行った。

○ 第1回 地質・基礎研究部会

開催日：令和5年4月20日

会議形式：WEB会議

○ 第2回 地質・基礎研究部会

開催日：令和5年6月22～23日

会議形式：天ヶ瀬ダム・安威川ダム現地見学

○ 第3回 地質・基礎研究部会

開催日：令和5年10月19日

会議形式：WEB対面併用会議

○ 第4回 地質・基礎研究部会

開催日：令和6年1月23日

会議形式：対面会議

④ 維持管理研究部会

「持続可能なダム機能の確保に向けた新技術の活用に関する研究」について、管理者との意見交換（木津川ダム総管、小坂部川ダム、中部電力平岡ダム、北部ダム統管、利根川ダム統管、北上川ダム統管、摺上川ダム）を通じて技術開発の利用実態やニーズを把握・整理した。

○ 第1回 維持管理研究部会

開催日： 令和5年5月26日

会議形式： (一財)ダム技術センター WEB対面併用会議

○ 第2回 維持管理研究部会

開催日： 令和5年8月24日

会議形式： (一財)ダム技術センター WEB対面併用会議

○ 第3回 維持管理研究部会

開催日： 令和5年12月1日

会議形式： (独法)水資源機構木津川ダム総合管理所会議室

○ 第4回 維持管理研究部会

開催日： 令和6年2月13日

会議形式： (一財)ダム技術センター WEB対面併用会議

⑤ 施工研究部会

部会成果をコンクリート標準示方書ダムコンクリート編の改訂に反映させるとともに、会誌「ダム工学」に掲載した。また、新テーマとして「働き方改革と熟練作業員減少への対応」を設定し、打設速度を高めるためのプレキャスト化の徹底、新RCD工法、放流管の協働設計法のほか、熟練工でなくとも品質面で遜色のないコンクリートを打設するためのコンクリート配合の見直しなどの改善提案を行うことを目標に検討を開始した。

○ 第1回 施工研究部会

開催日： 令和5年4月14日

○ 第2回 施工研究部会

開催日： 令和5年5月26日

○ 第3回 施工研究部会

開催日： 令和5年7月21日

○ 第4回 施工研究部会

開催日： 令和5年10月6日

○ 第5回 施工研究部会

開催日： 令和5年12月8日

○ 第6回 施工研究部会

開催日： 令和6年2月2日

会議形式： (一財)ダム技術センター WEB 対面併用会議(第1回～6回)

⑥ ダム技術史研究部会

休会中

⑦ ダム貯水池課題研究部会

「大規模洪水時におけるダム効果の情報発信に関する提言」をとりまとめ公表した。また、「広報」について、各地方整備局のダム関連ウェブサイトを調査し、特筆すべき事項を整理した。これを踏まえて、広報の狙いや効果等を把握するためのアンケート調査票を作成した。「技術継承・人材育成」について、各機関の実態を把握するためのアンケート調査票を作成した。

- 第1回 ダム貯水池課題研究部会
開催日：令和5年5月16日
- 第2回 ダム貯水池課題研究部会
開催日：令和5年8月4日
- 第3回 ダム貯水池課題研究部会
開催日：令和5年11月24日
- 第4回 ダム貯水池課題研究部会
開催日：令和5年12月26日
- 第5回 ダム貯水池課題研究部会
開催日：令和6年1月5日
会議形式：WEB会議（第1回～5回）

（2）交流研究事業

「ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究」、「コンクリートダム躯体の健全度評価のための非破壊試験に関する研究」の2テーマを継続した。また、「CSGの品質向上に関する研究」、「異常洪水時防災操作や事前放流などへの気候変動影響に関する研究」の2テーマを新規に着手した。

① ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究

研究者 法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科
溝渕 利明教授
研究フィールド 全国各地域から最近完成した37ダムを選定

② コンクリートダム躯体の健全度評価のための非破壊検査に関する研究

研究者 東京都立大学 都市環境学部 都市基盤環境学科
大野 健太郎准教授
研究フィールド 国土交通省関東地方整備局 湯西川ダム等

③ CSGの品質向上に関する研究

研究者 東京大学 工学系研究科 都市基盤環境学科
石田 哲也教授
研究フィールド 成瀬ダム

④ 異常洪水時防災操作や事前放流などへの気候変動影響に関する研究

研究者 九州大学大学院工学研究院 環境社会部門
矢野 真一郎教授
研究フィールド 筑後川水系（松原ダム、下筌ダム、大山ダム、寺内ダム、江川ダム、小石原川ダムなど）、白川水系（立野ダム）等

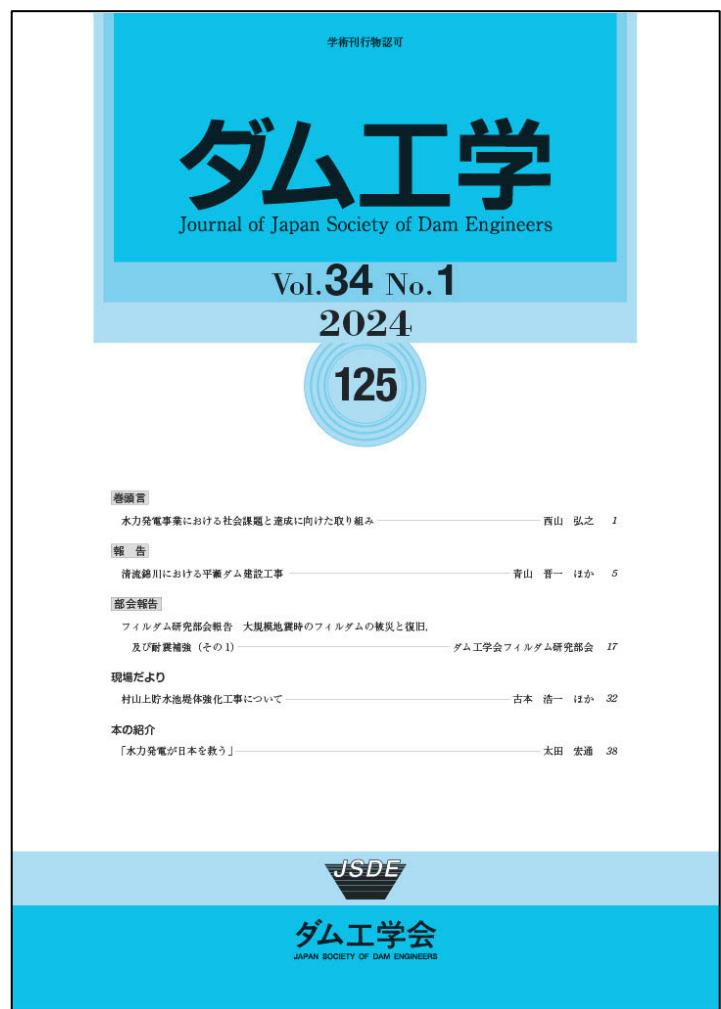
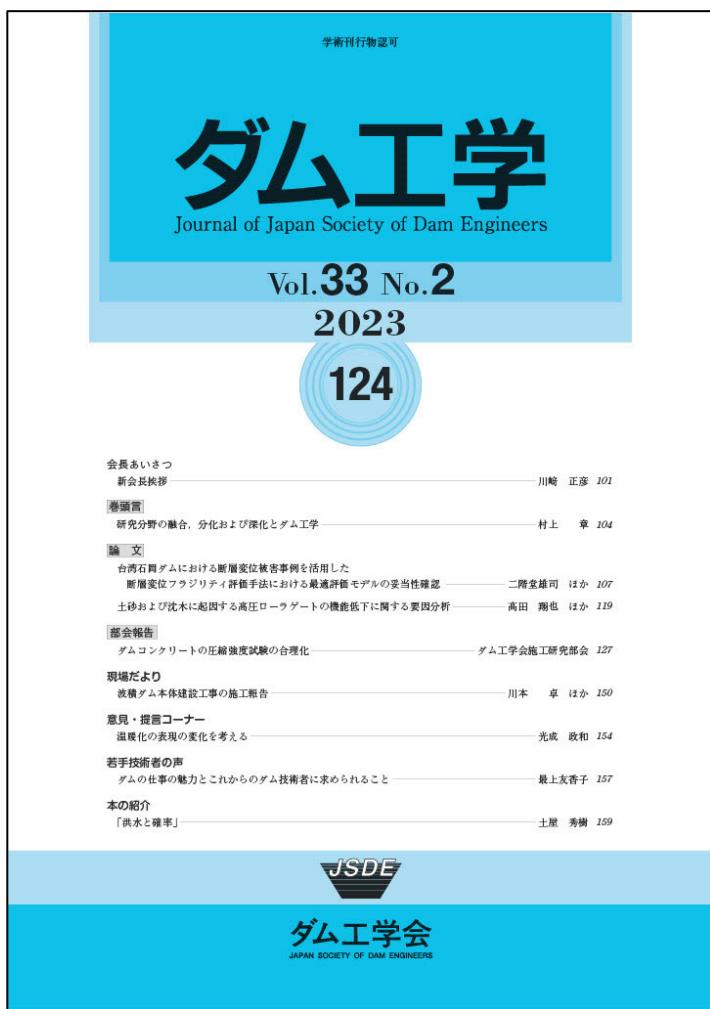
4. 出版活動

○学会誌「ダム工学」

令和5年度は、2回の会誌発行を行った。社会のニーズを踏まえた技術「ダムコンクリートの圧縮強度試験の合理化」、「大規模地震時のフィルダムの被災と復旧、及び耐震補強」などを掲載した。

VOL.33 No.2 令和5年 9月15日発行
論 文：2件
部会報告：1件

VOL.34 No.1 令和6年 3月15日発行
報 告：1件
部会報告：1件



VOL. 33 No.2 令和5年 9月15日発行

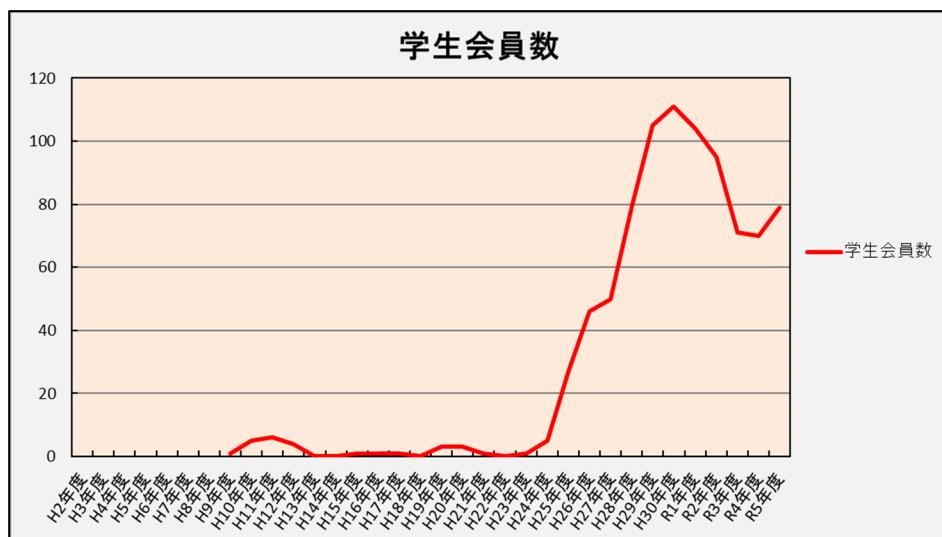
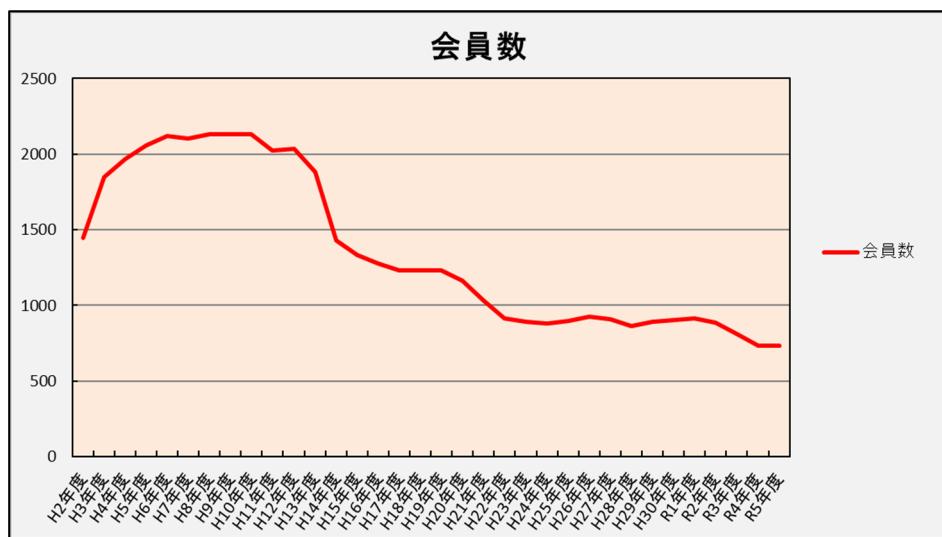
VOL. 34 No.1 令和6年 3月15日発行

5. 会員入会状況

(1) 会員数等の推移

※会員数は年度末現在の値

会員種別	令和4年度	令和5年度	備 考
正会員	567名	544名	23名減
シニア会員	97名	108名	11名増
学生会員	70名	79名	9名増
合計	734名	731名	3名減
賛助会員	50社	52社	2社増



(2) 会員獲得等の主な取り組み

- ・若手の会や地域活動などを通じて、参加者に対して入会を呼びかけた。
- ・学生会員を対象に通常総会案内を通じて正会員への移行を呼びかけた。

議案 2

令和5年度 収支決算報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 会費収入 (①～④計)	11,040,000	10,248,570	791,430	
①正会員会費	3,500,000	3,018,570	481,430	507口(手数料￥23,430差し引き)
②学生会員会費	0	0	0	
③シニア会員会費	740,000	430,000	310,000	3万/9口、4万/4口
④賛助会員会費	6,800,000	6,800,000	0	5万/136口
2. 事業収入 (①～⑦計)	1,625,000	1,500,000	125,000	
①総務小委員会収入	0	0	0	
②研究発表会収入	0	0	0	
③現地見学会収入	1,215,000	1,167,000	48,000	現地見学会参加費(大ダム会議と共同開催)
④講習会収入	0	0	0	
⑤表彰関係収入	0	84,000	△ 84,000	総会後の受賞者との会議参加費
⑥活性化推進収入	410,000	249,000	161,000	
若手の会	200,000	51,000	149,000	現地見学会参加費
ダムなんでも相談室	0	0	0	
北海道ブロック	20,000	19,000	1,000	現地見学会参加費
東北ブロック	20,000	50,000	△ 30,000	現地見学会参加費
中部近畿ブロック	0	0	0	
中国四国ブロック	20,000	17,000	3,000	現地見学会参加費
九州ブロック	150,000	112,000	38,000	with Dam Night参加費
with Dam Night 2023	0	0	0	
⑦調査研究収入	0	0	0	
コンクリートダム研究部会	0	0	0	
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	0	0	0	
維持管理研究部会	0	0	0	
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	0	0	0	
ダム貯水池課題研究部会	0	0	0	
交流研究事業	0	0	0	
3. 刊行収入 (①～④計)	1,076,000	1,441,433	△ 365,433	
①会誌一般発行収入	196,000	228,000	△ 32,000	「ダム工学」購読費(2回￥6,000)
②会誌広告料	700,000	600,000	100,000	会誌広告料(会誌発行回数2回)
③抜刷別刷収入	150,000	489,500	△ 339,500	抜刷・カラー印刷(鹿島建設、ニュージェック、埼玉大学からの注文)
④その他収入	30,000	123,933	△ 93,933	JAC著作権使用料等分配金
4. 図書出版事業収入	30,000	24,776	5,224	フィルダムの変位計測に関するGPS利用 マニュアル、ダムの科学
5. 雑収入 (①～②計)	1,601,000	1,250,043	350,957	
①補助金収入	1,600,000	1,250,000	350,000	九州地方計画協会(￥800,000)、河川基金(￥400,000)、CMED会(￥50,000)
②受取利息	1,000	43	957	銀行利息
小計 (1～5計)	15,372,000	14,464,822	907,178	
6. 前年度繰越金	※34,176,562	34,176,562	0	
合計 (小計+6)	49,548,562	48,641,384	907,178	

※ 前年度繰越額

(単位：円)

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 事業支出 (①～⑦計)	10,768,124	7,859,750	3,858,049	
①研究発表会支出	655,000	697,976	△ 42,976	研究発表会・特別講演会・講習会 同時開催(Web)
②現地見学会支出	1,565,000	1,409,454	155,546	現地見学会小委員会(大ダム会議と 共同開催)
③講習会支出	150,000	33,880	116,120	研究発表会・特別講演会・講習会 同時開催(Web)
④表彰関係支出	1,053,000	824,252	228,748	表彰・選考委員会、公開審査会経 費(Web)
⑤広報支出	110,000	110,484	△ 484	広報小委員会(HP管理費)
⑥活性化推進支出	5,682,124	4,220,147	1,461,977	活性化推進小委員会 現地見学会、若手技術者勉強会経 費(Web)
若手の会	1,300,000	1,048,195	251,805	
ダムなんでも相談室	885,000	473,147	411,853	イベント規模縮小(大ダム会議と 共同開催)
北海道ブロック	490,124	356,970	133,154	現地見学会、オンライン会議室経 費
東北ブロック	613,000	625,175	△ 12,175	with Dam Night 経費(Web)、現地 見学会、農業体験経費
中部近畿ブロック	530,000	189,195	340,805	with Dam Night 経費(Web)、現地 見学会中止
中国四国ブロック	300,000	148,674	151,326	現地見学会経費
九州ブロック	1,214,000	1,239,538	△ 25,538	with Dam Night 経費(Web)、現地 見学会経費
with Dam Night 2023	350,000	139,253	210,747	with Dam Night 経費(Web)
⑦調査研究支出	1,553,000	563,557	989,443	
コンクリートダム研究部会	1,000	770	230	残高証明発行手数料
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	30,000	23,801	6,199	現地調査
維持管理研究部会	60,000	26,781	33,219	現地調査
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	1,000	880	120	残高証明発行手数料
ダム貯水池課題研究部会	61,000	0	61,000	
交流研究事業	1,400,000	511,325	888,675	既存2テーマ+新規2テーマ
2. 刊行支出	3,300,000	2,943,028	356,972	
①会誌作成費	3,300,000	2,943,028	356,972	発送料・抜刷別刷料含む
3. 図書出版事業支出	0	0	0	GPS利用マニュアル増刷
4. 事務支出 (①～⑪計)	1,595,000	1,727,546	△ 132,546	
①会場費	620,000	666,591	△ 46,591	第33回総会・表彰式等経費(Web併用)
②会議費	200,000	368,208	△ 168,208	総会後の受賞者との会議
③印刷製本費	30,000	0	30,000	第33回総会(Web併用)
④諸謝金	100,000	62,000	38,000	ダム工学 卷頭言・査読料
⑤消耗品費	0	0	0	
⑥通信費	100,000	203,929	△ 103,929	会費請求書送付等
⑦支払手数料	150,000	59,545	90,455	振込手数料等
⑧旅費交通費	0	0	0	
⑨コンサルタント料	200,000	207,000	△ 7,000	会計顧問報酬・登記謄本手続き代 行手数料
⑩雑費	150,000	127,865	22,135	ダム日本購読料、日本工学会会費 防災学术連携体会費等
⑪源泉徴収費	45,000	32,408	12,592	諸謝金に対する源泉徴収税
5. 予備費支出	100,000	0	100,000	
小計 (1～5計)	15,763,124	12,530,324	3,232,800	
6. 繰越金	33,785,438	36,111,060	△ 2,325,622	
合計 (小計+6)	49,548,562	48,641,384	907,178	

注1 14,464,822 - 12,530,324 = 1,934,498
 注2 36,111,060(R6年度への繰越金)

令和 5 年度 会計監査報告

私は、ダム工学会の令和 5 年度収支決算報告についての監査を行った結果、収支決算報告書は適正であることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和 6 年 4 月 17 日

ダム工学会

監事

氏名 光成 政和 

令和 5 年度 会計監査報告

私は、ダム工学会の令和 5 年度収支決算報告についての監査を行った結果、収支決算報告書は適正であることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和 6 年 4 月 17 日

ダム工学会

監事

氏名 毛利 哲明 

理 事 選 任 (案)

定款第22条に基づき、令和6年4月25日の第45回評議委員会において、下記の方々が理事に推薦された。

理 事

角 哲也	京都大学防災研究所 水資源環境研究センター 産学共同研究部門 ダム再生・流砂環境再生技術 研究領域 特定教授
溝渕 利明	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授
乗京 正弘	飛島建設株式会社 代表取締役社長
石井 秀紀	株式会社ニュージェック シニアエキスパート
山口 嘉一	一般財団法人ダム技術センター 理事
村上 章	京都大学 大学院総合生存学館 教授・学館長
道奥 康治	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授
富田 晋司	独立行政法人水資源機構 副理事長
足達 謙二	独立行政法人水資源機構 理事
小平 卓	一般財団法人水源地環境センター 理事
多田 隆司	関西電力株式会社 執行役常務
[新任] 藤井 誠	中部電力株式会社 再生可能エネルギーカンパニー 水力事業部長
内藤 明	株式会社大林組 土木本部生産技術本部 統括部長
黒木 博	大成建設株式会社 土木本部土木技術部ダム技術室 専任部長
林 健二	鹿島建設株式会社 土木管理本部 統括技師長
藤田 司	株式会社安藤・間 建設本部 土木技術統括部 フェロー
[新任] 小林 裕	株式会社建設技術研究所 東京本社 ダム部 顧問
高橋 努	八千代エンジニヤリング株式会社 代表取締役社長執行役員
植本 実	日本工営株式会社 執行役員 エグゼクティブエンジニア
鎌屋 明	日立造船株式会社 執行役員 機械・インフラ事業本部 副事業本部長
青川 満	株式会社 I H I インフラ建設 取締役 防災・水門事業部長
[退任] 川崎 正彦	一般財団法人ダム技術センター 研究顧問
[退任] 水口 佳樹	中部電力株式会社 執行役員 再生可能エネルギーカンパニー プロジェクト推進部長
[退任] 石田 裕哉	株式会社建設技術研究所 顧問 ガバナンス統括本部 監査室 室長

監 事 選 任 (案)

定款第22条に基づき、令和6年4月25日の第45回評議委員会において、下記の方々が監事に推薦された。

監 事

光成 政和 一般財団法人日本ダム協会 専務理事
[新任] 佐野 正幸 電源開発株式会社 土木建築部長

[退任] 毛利 哲明 電源開発株式会社 常務執行役員

令和6年度 事業計画

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和5年度に引き続き、ダム工学研究の向上発展を図ることを目的とし、以下の事業を実施する。また、事業実施にあたっては、WEB会議システムの活用を十分に図る。

1. 委員会等活動

- 1) 通常総会
 - 2) 理事会
 - 3) 評議委員会
 - 4) 委員会
 - ・企画運営委員会
 - ・編集委員会
 - ・調査研究委員会
 - ・災害調査委員会
 - ・表彰委員会
 - ・選考委員会
 - ・優秀発表賞選考委員会
- の各委員会を開催する。

2. 行事活動

- | | |
|---------------|----|
| 1) 特別講演会 | 1回 |
| 2) 研究発表会 | 1回 |
| 3) 講習会 | 1回 |
| 4) 現地見学会 | 1回 |
| 5) ダム工学会賞 表彰式 | 1回 |
| 6) 活性化関連活動 | |
- 2) 、 3) 合同開催
- ・地域活動(オンライン会議室、農業体験など)
 - ・若手の会
 - ・ダムなんでも相談室
 - ・“with Dam★Night” 東京、東北、中部・近畿、九州で開催。

3. 出版・広報活動

1) 学会誌「ダム工学」

VOL.34 No.2 2024年 9月 発行予定 (2024年 9月15日号)
VOL.35 No.1 2025年 3月 発行予定 (2025年 3月15日号)

2) ダム工学会ホームページの運用、メルマガ通信及び動画配信

ダム工学会ホームページやメルマガ通信、動画配信などを活用し、ダムなどに関する見学会等のイベント情報をはじめ、ダムの役割などの知識の提供を行う。

3) 戰略的・効果的な広報の実施

特別講演会、研究発表会、講習会、現地見学会(リアルやバーチャル方式の活用)及び活性化関連活動等を通じてダムに関する戦略的・効果的な広報を実施する。

4. 研究活動

1) ~7) の研究部会の活動と共に、交流研究事業に取り組む。

4. 1 研究部会 令和6年度活動内容

1) コンクリートダム研究部会

「コンクリートダムとDX -何が変わらのか- (仮称)」に関し、各編技術コラムの推敲・校正等を行い、会誌「ダム工学」への投稿を予定している。また、新たな研究テーマについて検討・選定のうえ、作業分担の調整、作成準備に取り掛かる予定である。

2) フィルダム研究部会

「フィルダム再開発（嵩上げ、耐震補強、放流設備増強）の技術的検討」について、再開発事例の収集整理と分析、再開発にあたっての技術的課題と対応方法について検討する。会誌「ダム工学」投稿論文について必要な対応を行う。

3) 地質・基礎研究部会

「ダム（堤体、貯水池周辺斜面）の維持管理・再開発における地質調査に関する研究」について討議し、会誌「ダム工学」への報文としてとりまとめる。併せて、新規研究テーマの検討を進める。

4) 維持管理研究部会

「持続可能なダム機能の確保に向けた新技術の活用」について、昨年度までの成果をとりまとめ、ICT等の新技術を活用した維持管理の将来像の提言を部会報告として会誌「ダム工学」に投稿する。年度後半は、新研究テーマについて議論・着手する。

5) 施工研究部会

「働き方改革と熟練作業員減少への対応」について、ダムの設計方法、コンクリートの配合、施工方法等に関わる改善提案を行うための検討を進める。部会成果を実務に反映することを念頭に、建設コンサルタントやゲートメーカー等のダム工学会会員との連携を図りながら、成果の公表方法を工夫する。

6) ダム技術史研究部会

ダムの調査計画・設計・施工段階における技術的な分岐点となる事象に応じたトピックに着目したダム技術史のとりまとめを行うとともに、出版に向けた調整を実施する。

7) ダム貯水池課題研究部会

令和5年度に収集した資料やアンケート調査結果を踏まえて、「広報」のあり方に関する論文を作成し、会誌「ダム工学」へ投稿する。また、「技術継承」に関して、各機関の実態をとりまとめると共に、ダム工学会から各行政機関への支援策案やスキームを検討・整理する。

4. 2 交流研究事業

「ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究」、「CSGの品質向上に関する研究」、「異常洪水時防災操作や事前放流などへの気候変動影響に関する研究」の3テーマを継続する。

1) ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究

前年度に引き続き、解析モデル数を増やして解析を行い、温度ひび割れ発生確率曲線の作成を行っていく。

2) CSGの品質向上に関する研究

台形CSGダムに用いるCSGの品質向上について、材料特性および施工性の両者から検討を行う。

3) 異常洪水時防災操作や事前放流などへの気候変動影響に関する研究

気候変動がダムの異常洪水時防災操作や事前放流などへ与える影響を検討する。

報告2

令和6年度 収支予算

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
1. 会費収入 (①～④計)	10,740,000	11,040,000	△ 300,000	
①正会員会費	3,600,000	3,500,000	100,000	R3-R4年度決算額考慮
②学生会員会費	0	0	0	
③シニア会員会費	540,000	740,000	△ 200,000	R3-R4年度決算額考慮
④賛助会員会費	6,600,000	6,800,000	△ 200,000	R3-R4年度決算額考慮
2. 事業収入 (①～⑦計)	1,947,000	1,625,000	322,000	
①総務小委員会収入	400,000	0	400,000	第34回総会後の懇親会参加費
②研究発表会収入	0	0	0	学術研究発表会(Web)参加費無
③現地見学会収入	1,167,000	1,215,000	△ 48,000	現地見学会参加費 (大ダム会議と合同開催) 大ダム会議負担金除く
④講習会収入	0	0	0	講習会(Web)参加費無
⑤表彰関係収入	0	0	0	
⑥活性化推進収入	380,000	410,000	△ 30,000	活性化推進小委員会
若手の会	60,000	200,000	△ 140,000	現地見学会参加費
ダムなんでも相談室	0	0	0	河川基金、CMED会補助金除く
北海道ブロック	20,000	20,000	0	現地見学会参加費
東北ブロック	50,000	20,000	30,000	現地見学会参加費
中部近畿ブロック	50,000	0	50,000	現地見学会参加費
中国四国ブロック	20,000	20,000	0	現地見学会参加費
九州ブロック	180,000	150,000	30,000	with Dam Night参加費 九州地方計画協会を除く
with Dam Night 2023	0	0	0	with Dam Night(web)
⑦調査研究収入	0	0	0	調査研究委員会
コンクリートダム研究部会	0	0	0	
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	0	0	0	
維持管理研究部会	0	0	0	
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	0	0	0	
ダム貯水池課題研究部会	0	0	0	
交流研究事業	0	0	0	
3. 刊行収入等 (①～④計)	1,076,000	1,076,000	0	
①会誌一般発布収入	196,000	196,000	0	講読会員会費(2回¥6,000)
②会誌広告料	700,000	700,000	0	会誌広告料(発行回数2回)
③抜刷別刷収入	150,000	150,000	0	会誌の抜刷・カラー印刷
④その他収入	30,000	30,000	0	JST特許料・学術著作権複写
4. 図書出版事業収入	30,000	30,000	0	フィルダムの変位計測に関するGPS利用マニュアル、ダムの科学
5. 雑収入 (①～②計)	1,591,000	1,601,000	△ 10,000	
①補助金収入	1,590,000	1,600,000	△ 10,000	大ダム会議負担金(¥50,000) CMED会(¥200,000) 九州地方計画協会(¥800,000) 河川基金(¥540,000)
②受取利息	1,000	1,000	0	銀行利息
小計 (1～5 計)	15,384,000	15,372,000	12,000	
6. 前年度繰越金	※36,111,060	30,191,120	5,919,940	
合計 (小計+6)	※51,495,060	45,563,120	5,931,940	

※R5からR6への繰越額

(単位：円)

支出の部

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
1. 事業支出 ((①)～(⑦)計)	9,851,500	10,768,124	△ 916,624	
①研究発表会支出	770,000	655,000	115,000	研究発表会・講習会合同開催(web)
②現地見学会支出	1,565,000	1,565,000	0	現地見学会小委員会 (大ダム会議と合同開催)
③講習会支出	162,000	150,000	12,000	研究発表会・講習会合同開催 (web)
④表彰関係支出	950,000	1,053,000	△ 103,000	表彰・選考委員会
⑤広報支出	120,000	110,000	10,000	広報小委員会(HP管理費)
⑥活性化推進支出	5,482,500	5,682,124	△ 199,624	活性化推進小委員会
若手の会	1,190,000	1,300,000	△ 110,000	現地見学会、若手技術者勉強会 (Web)経費
ダムなんでも相談室	800,000	885,000	△ 85,000	大ダム会議と合同開催
北海道ブロック	461,000	490,124	△ 29,124	現地見学会経費、オンライン会議 室経費
東北ブロック	650,000	613,000	37,000	with Dam Night、現地見学会、農 業体験経費
中部近畿ブロック	530,000	530,000	0	with Dam Night、現地見学会経費
中国四国ブロック	250,000	300,000	△ 50,000	現地見学会経費
九州ブロック	1,251,500	1,214,000	37,500	with Dam Night、現地見学会経費
with Dam Night 2023	350,000	350,000	0	with Dam Night 経費
⑦調査研究支出	802,000	1,553,000	△ 751,000	調査研究委員会
コンクリートダム研究部会	1,000	1,000	0	残高証明発行手数料
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	20,000	30,000	△ 10,000	現地調査等 経費
維持管理研究部会	60,000	60,000	0	現地調査等 経費
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	1,000	1,000	0	残高証明発行手数料
ダム貯水池課題研究部会	20,000	61,000	△ 41,000	報告書作成費用等
交流研究事業	700,000	1,400,000	△ 700,000	継続3テーマ
2. 刊行支出	3,300,000	3,300,000	0	
①会誌作成費	3,300,000	3,300,000	0	発送料・抜刷別刷料含む (会誌発行2回、委員会4回)
3. 図書出版事業支出	0	0	0	
4. 事務支出 ((①)～(⑪)計)	2,145,000	1,595,000	550,000	
①会場費	570,000	620,000	△ 50,000	(第34回総会・表彰式・特別講演 会・理事会・懇親会)
②会議費	800,000	200,000	600,000	(第34回総会・表彰式・特別講演 会・理事会・懇親会)
③印刷製本費	30,000	30,000	0	第34回総会
④諸謝金	100,000	100,000	0	ダム工学 卷頭言・査読料
⑤消耗品費	0	0	0	
⑥通信費	100,000	100,000	0	会費請求書 送付等
⑦支払手数料	150,000	150,000	0	WEBバンク・口座振替手数料
⑧旅費交通費	0	0	0	
⑨コンサルタント料	200,000	200,000	0	会計顧問報酬 登記役員変更手続き代行料
⑩雑費	150,000	150,000	0	ダム日本購読料、日本工学会会費 防災学術連携体会費
⑪源泉徴収費	45,000	45,000	0	諸謝金に対する源泉徴収
5. 予備費支出	100,000	100,000	0	
小計 (1～5計)	15,396,500	15,763,124	△ 366,624	
6. 繰越金	—	29,799,996	—	
合計 (小計+6)	—	45,563,120	—	

R6の予算収支 ¥15,384,000 - ¥15,396,500 = ¥ -12,500
R5の予算収支 ¥15,372,000 - ¥15,763,124 = ¥ -391,124

報告3

新 任 役 員 等 の 紹 介

定款第23条、第40条に基づき、令和6年5月16日の第91回理事会において選出する。

評議委員の紹介

定款細則第6条に基づき、令和6年4月25日の第45回評議委員会において、下記の方々が評議委員に選出された。

評議委員

石田 哲也	東京大学大学院工学系研究科副研究科長	社会基盤学専攻 教授
矢野 真一郎	九州大学 工学研究院 環境社会部門	教授
[新任] 岸田 潔	京都大学大学院 工学研究科 都市社会工学専攻	教授
[新任] 岸 利治	東京大学 生産技術研究所 人間・社会系部門	教授
[新任] 藤澤 和謙	京都大学大学院 農学研究科	教授
[新任] 酒井 富雄	東京都水道局 建設部 施設設計課	課長
[新任] 板垣 修	国立研究開発法人土木研究所 河道保全研究グループ	グループ長
竜澤 宏昌	独立行政法人水資源機構 ダム事業部長	
奥秋 芳一	一般財団法人水源地環境センター 水源地環境技術研究所長	
[新任] 恒川 明伸	東京電力ホールディングス株式会社 技術戦略ユニット土木・建築統括室 土木・建築エンジニアリングセンター 地圏土木技術グループ マネージャー	
佐藤 正俊	中部電力株式会社 電力技術研究所 土木グループ長	
山根 雄一	関西電力株式会社 再生可能エネルギー事業本部 水力部長	
西浦 和幸	飛島建設株式会社 経営本部 経営企画部 部長	
加瀬 俊久	清水建設株式会社 土木技術本部 上席エンジニア	
糠谷 勝彦	三井住友建設株式会社 土木統括室 担当部長	
吉野 俊	前田建設工業株式会社 土木事業本部 営業第1部 副部長(第3グループ) 兼ダム担当部長	
高橋 正人	株式会社熊谷組 土木事業本部 ダム技術部 部長	
片岡 大到	佐藤工業株式会社 土木事業本部営業推進部営業推進第二課 課長	
三浦 義典	八千代エンジニヤリング株式会社 事業統括本部 国内事業部 水工部 部長	
井根 健	株式会社ニュージェック 執行役員 技術本部長代理	
鈴木 孝雄	日本工営株式会社 河川水資源事業部 ダム発電部 副技師長	
[新任] 高塚 哲	株式会社建設技術研究所 東京本社 ダム部 部長	
立花 猛	株式会社エイト日本技術開発 国土インフラ部 河川・港湾グループ グループマネージャー	
上出 耕三	株式会社丸島アクアシステム 技術本部 技術顧問	
[退任] 大森 栄治	東京都水道局 净水部 净水課長	
[退任] 稲田 茂樹	東電設計株式会社 再生可能エネルギー本部再エネ技術部 設備技術グループ マネージャー	
[退任] 水摩 智嘉	株式会社建設技術研究所 大阪本社 本社次長	
[退任] 服部 敦	国立研究開発法人 土木研究所 河川総括研究監	

令和5年度 ダム工学会賞受賞者

1. 功績賞

功績賞は、技術賞と同等の業績または論文賞と同等の論文発表等の積み重ねによって、ダム事業の発展やダム工学の進歩に著しい貢献をなしたと認められた個人または団体、あるいはダム工学会の運営に寄与し、学会の声価を高め、その興隆に著しい貢献をなしたと認められた個人または団体に対して授与する。

1) 特別功績賞

ダム工学の進歩及びダム工学会の発展に特に著しい貢献

受 賞 者	所 属
田代 民治	鹿島建設株式会社 顧問

2) 功績賞

ダム工学の進歩及びダム工学会の発展に貢献

受 賞 者	所 属
柳川 城二	前田建設工業(株) 顧問
増川 晋	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構
柳澤 得寿	日本工営株式会社 河川水資源事業部 ダム発電部副理事
山本 輿四朗	前田建設工業 土木事業本部 上級技師長

2. 技術功績賞

技術功績賞は、ダムの建設・管理等の実務の積み重ねにより、ダム技術の進歩及び発展に著しい貢献をなしたと認められる個人に授与するものとする。

受 賞 者	所 属
吉川 裕幸	株式会社ムツミ 専務執行役員 施工副本部長

3. 技術貢献賞

技術貢献賞は、ダムの建設・管理等の実務において、ダム工学の進歩、発展及びダム技術の普及、継承に著しい貢献をなしたと認められる活動を行った団体に授与するものとする。

受 賞 者	所 属
	(今年度は受賞団体なし)

4. 技術賞

技術賞は、ダムの計画、設計、施工、または維持管理等に関して、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業または業務を実施した個人または団体に対して授与する。

事 業 名 ・ 業 務 名	受 賞 者
瑞穂ダム堤体復旧工事(直轄 災害復旧事業「早来地区」)	<ul style="list-style-type: none">・国土交通省北海道開発局 室蘭開発建設部 胆振農業事務所・中山・笛田経常建設共同企業体・NTC コンサルタント株式会社
村山上貯水池堤体強化工事	<ul style="list-style-type: none">・東京都水道局西部建設事務所・鹿島・日本国土建設共同企業体・日本工営株式会社
安威川ダム建設事業	<ul style="list-style-type: none">・大阪府・一般財団法人 ダム技術センター・独立行政法人 水資源機構・大林組・前田建設工業・奥村組・日本国土開発 特定建設工事共同企業体・豊国工業株式会社・株式会社ニュージェック
錦川総合開発事業平瀬ダム 建設工事	<ul style="list-style-type: none">・山口県・清水建設(株)・五洋建設(株)・井森工業(株)・(株)ナルキ 特定建 設工事共同企業体・豊国工業(株)・新光産業(株)共同企業体・(株)建設技術研究所

5. 論文賞

論文賞は、ダム工学会が刊行する論文集「ダム工学」及び、これと同等の会誌にダム工学に関わる独創的な論文を発表し、ダム工学における学術、技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた本会会員である個人または本会会員を含む団体に対して授与する。

受付番号	論 文 名	受 賞 者
2	土砂および沈木に起因する高圧ローラゲートの機能低下に関する要因分析	高田 翔也 田中 千喬 宮川 仁 石神 孝之
3	Study on Mix Proportion Design Procedure for Super-high Cementitious RCC with Stone Powder Replacement	青坂 優志 筒井 勝治 三木 朋広

6. 技術開発賞

技術開発賞は、ダムの調査、試験、設計、施工または維持管理等において、創意工夫に富む技術を開発実用化し、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた本会会員である個人または本会会員を含む団体に対して授与する。

技 術 開 発 件 名	受 賞 者
合理的なカーテングラウチング, Hybrid工法の開発	吉津 洋一 関西電力(株) 中村 和男 関西電力(株) 川田 達也 (株)ニュージェック 藤井 隆弘 (株)ニュージェック 筒井 勝治
CSG材の全量品質管理技術の開発	鹿島建設(株) 藤崎 勝利 鹿島建設(株) 大井 篤 鹿島建設(株) 岡本 道孝 鹿島建設(株) 小林 弘明 鹿島建設(株) 田中 恵祐 鹿島建設(株) 舛谷 麻衣
Starlinkと自動充電ポート付きドローンを活用したダム現場・施設監理	(株)大林組 小俣 光弘 (株)大林組 田中 紘一 (株)大林組 大場 健太郎 KDDIスマートドローン(株) 山崎 鳩
美和ダム再開発事業におけるストックヤード方式の堆砂対策	国土交通省 中部地方整備局 三峰川総合開発工事事務所
石礫の露出高の簡易予測モデルを用いたダム下流の河床環境評価手法の開発	(公財)リバーフロント研究所 宮川 幸雄 豊田市矢作川研究所 小野田 幸生 (株)建設技術研究所 堀田 大貴 国立環境研究所 末吉 正尚 (国研)土木研究所 中村 圭吾

7. 著作賞

著作賞は、ダム工学を体系化し、またはダム工学における新しい分野を集大成し、ダム工学、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた工学的な著作の著者、またはダム工学、ダム技術の意義あるいはダム技術者の活躍を広く世に紹介することに著しい貢献をなしたと認められた一般的な著作の著者に対して授与する。

著作名	受賞者
	(今年度は受賞なし)

令和5年度 ダム工学会技術賞 受賞ダム



瑞穂ダム



村山上貯水池



安威川ダム



平瀬ダム

幅広い分野の会員からなる一般社団法人ダム工学会は、工学の総合的な発展に貢献しています。



一般社団法人ダム工学会
Japan Society of Dam Engineers

事務局 〒110-0008 東京都台東区池之端2-9-7
池之端日殖ビル2F
TEL.03-5815-4161 FAX.03-5815-4162
URL <http://www.jsde.jp/>